

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2026 年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 参加資格について

- ① 2026 年度日本陸上競技連盟の登録者
- ② 国公立大学陸上競技連盟加盟校の学生及び大学院生
- ③ 対校選手は男女ともに各校 1 種目 3 名以内。ただし混成競技は男女ともに 2 名以内。（リレー競技を除く）
- ④ 男女のリレー対校種目は、各校それぞれ 1 チームまで参加できる。

3. 競技場について

- (1) 競技者・競技役員・補助員以外は競技場内に立ち入ることができない。
- (2) 各大学の応援場所については別途連絡の指定場所にて行うこと。

4. 招集について

- (1) 招集所は、第 11 ゲート（競技場内 100m スタート）付近に設ける。
- (2) 種目別招集開始・完了時刻は、プログラムの競技日程に記載のとおりとする。
- (3) 招集の方法については、次の通りである。
 - ① 招集開始時刻から招集完了時刻の間に招集所に集合し、競技者係の点呼を受ける。その際アスリートビブス・スパイクピン・商標の点検を受ける。トラック競技のみ、腰ナンバーを受け取る。
 - ② 3000mSC 以上の長距離種目については、主催者側で用意するアスリートビブスを使用すること。
（※当日招集所で配布する。）
 - ③ 代理人による最終点呼は認めない。2 種目を同時に兼ねて出場する場合、本人または代理人が TIC（学校受付付近、正面玄関）に用意した同時出場届を、先に招集を受ける競技の招集完了時刻までに提出する。
 - ④ リレー競技は、オーダーの変更にかかわらず、その都度リレーオーダー用紙（TIC に用意）に 1 チームにつき 1 枚記入し、1 組目の招集完了時刻の 1 時間前までに、招集所（競技者係）に提出すること。
提出のない場合は棄権とみなす。
 - ⑤ 混成競技の招集について、トラック種目は招集所、フィールド種目は現地集合とする。なお、混成競技者控室を第 1 集会室（十種競技）、放送室（七種競技）に設ける。
 - ⑥ 競技運営の都合上、十種競技棒高跳の競技を終了した競技者が半数程度になった場合、棒高跳を終了した競技者のみ先にやり投を実施する場合がある。
 - ⑦ 招集開始・完了時刻は招集所に備え付けの時計を基準とする。招集完了時刻に遅れた競技者／チームは欠場とする。
 - ⑧ 組、レーン順、試技順にナンバーカードをつけたユニフォームを着用して確認を受けること。
 - ⑨ トラック種目については、スタートまでに現地で出発係の点呼を受けること。
 - ⑩ 欠場の場合は、招集完了時刻までに招集所へ欠場届を提出すること。

5. 競技の抽選及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技の予選のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラムに記載した順による。
- (2) トラック競技の準決勝以降の組み合わせ及びそのレーン順は、速報サイトに掲載するため各自で確認すること。

6. 各種書類について

大会期間中の各種書類については、TIC にて配布、招集所（抗議用紙を除く）へ提出することとし、対象書類は下記のとおりとする。なお、TIC は正面玄関（学校受付付近）に設置する。

・欠場届、同時出場届、リレーオーダー用紙、抗議用紙、記録証

7. 競技について

(1) トラック競技について

- ① トラック競技の計時は、すべて写真判定装置を使用する。
- ② 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- ③ TR16.8 より、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- ④ スターターの合図はイングリッシュコマンドとする。（「On your marks」、「Set」）
- ⑤ 競技の打ち切りについて
運営の都合上、以下の時間で競技を打ち切る。
 - ・ 男子 5000m：競技開始 18 分経過時、あと1周に到達していない競技者。
 - ・ 女子 5000m：競技開始 21 分経過時、あと1周に到達していない競技者。
 - ・ 男子 10000m：競技開始 36 分経過時、あと1周に到達していない競技者。
 - ・ 男女 5000mW：競技開始 30 分経過時、あと1周に到達していない競技者。
- ⑥ トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは、TR21.2を適用し、決定する。
- ⑦ 4×100mRにおけるマーキング（マーカー）について、50 mm×400 mm 以内のテープを走者ごとに各大学一つだけ使用できる。各自で用意の上、レース後に必ず剥がすこと。
- ⑧ 運営上の都合により、一部の競技を予選・決勝とする。
- ⑨ 長距離種目（3000mSC、5000m、5000mW、10000m）については気象条件によって給水を行う。この場合、給水所はバックストレート中央付近に設置する。
- ⑩ 長距離種目（3000mSC、5000m、5000mW、10000m）において何らかのアクシデント等により選手の競技を終了させたい場合、各大学の責任者は TIC へその旨連絡すること。
- ⑪ 5000mW においては、競歩審判員主任による単独失格権限ルール（TR54.4.1）を適用する。

(2) フィールド競技について

- ① 投てき競技の計測は光波距離測定装置を使用する。ただし、砲丸投についてはメジャー計測とする。
- ② 投てき競技で光波距離測定装置が使用できない場合、計測は巻尺を使用することがある。
- ③ 跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができる。また、サークルで行う投てき競技は、マーカーを1つだけ使用することができる。
- ④ 棒高跳の競技者は、自分が希望する支柱の位置を競技が始まる前に担当審判員に申し出る。
その後、位置を変更したい場合も担当競技役員に申し出る。
- ⑤ フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ⑥ 三段跳の踏切板は、砂場から男子 11m、女子 9m の地点に設置する。
- ⑦ フィールド競技で使用するすべり止め（炭マグ等）は、会場が用意したものを使用することができる。

(3) リレー競技について

- ① リレーメンバーに関しては TR24.10〔国内〕を適用し、リレー・チームのメンバーは、どのラウンドにおいても、出場するメンバーのうち少なくとも 2 名は当該リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。
- ② 最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して 2 名以内に限り、他の競技者と交代することができる。

※4×400m リレーにおいて出走が 4 チーム以下となった場合は、TR24.17 より、第 1 走者の第 1 曲走路端（バックストレート入口のブレイクライン）からレーンを離れて走る方法で実施する。

- (4) 競技者は勝手に競技場所を離れること、ビデオ装置・カセットレコーダー・ラジオ・CD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない（TR6.3.2）。
- (5) 上記を含む不当な行為をした競技者には警告が与えられ、場合によっては当該競技から除外される。警告は黄色（スタート動作時については黄黒色）カード、除外は赤色（スタート動作時については赤黒色）カードを示すことによって競技者に知らされる。
- (6) アスリートビブスならびに腰ゼッケンについて
 - ① アスリートビブス（横 24cm 以内×縦 16cm 以内）は、各大学で準備すること。また、競技に参加する際には胸と背に確実につけること。ただし、3000mSC 以上の長距離種目については、主催者側で用意するアスリートビブスを使用すること。
 - ② アスリートビブスの数字は、**男子は黒、女子は赤**で表示すること。
 - ③ 跳躍種目については、胸、背の一方だけでもよい。
 - ④ トラック競技はすべて、招集の際に配布する腰ナンバーカードを使用し、右腰やや後方に取り付けること。

8. 棄権について

- (1) 選手の欠場は、招集所で受け付けた者のみとする。
- (2) 当日やむを得ず欠場する者は、TIC にある所定の「欠場届」を招集開始前に競技者係に提出すること。
- (3) 欠場届を提出せずに欠場した場合は、リレーを含め以後の競技への参加を認めない。

9. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポールは各自で持参したものを使用する。（現地で検査する）
- (2) 競技用具は、競技場備え付けのものを使用し、個人の用具（投てき物等）を持ち込んではならない。
※ただしやりについては持ち込みを認める。使用を希望する場合は、競技開始 90 分前から 60 分前までに器具用具室(ゴール地点横)において検査を受け、合格したものに限り使用を認める。

10. 競技用靴について（TR5.2 参照）

スパイクピンの長さは、9mm 以内、走高跳・やり投は 12mm 以内とする。
いずれの場合もスパイクピンの数は、11 本以内とする。

11. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、最後の一人になり優勝が決定するまで次のとおりとする。ただし天候等の状況により変更することもある。

種目	練習	1	2	3	4	5	以降
走高跳（女）	1m15/1m35	1m25	5cmずつ	1m60	1m63	1m66	3cm
走高跳（男）	1m50/1m80	1m55	5cmずつ	2m00	2m03	2m06	3cm
走高跳（七種）	1m25/1m40	1m30	5cmずつ	1m45	1m48	1m51	3cm
走高跳（十種）	1m50/1m70	1m55	5cmずつ	1m85	1m88	1m91	3cm
棒高跳（女）	※	2m20	20cmずつ	3m20	3m30	3m40	10cm
棒高跳（男）	※	2m60	20cmずつ	4m40	4m50	4m60	10cm
棒高跳（十種）	2m80/3m60	3m00	20cmずつ	4m40	4m50	4m60	10cm

※走高跳および棒高跳（十種）の練習について、競技者は上記二つの高さから選択すること。

※男子棒高跳および女子棒高跳の練習の高さについては、当日、競技者と審判員が相談の上、三段階で決定する。

※全ての競技者の練習が終わった時点で時間に余裕がある場合は、審判員の判断により任意の高さで練習しても良い。

12. 結果発表と抗議について

- 各種目の結果発表は速報サイトにて行う。
- 発表された結果に対する抗議は、TR8.2 に定められている時間内（同一日に次のラウンドが行われる場合には 15 分以内、それ以外は 30 分以内）に競技者自身または代理人が TIC に申し出、抗議用紙を提出すること。なお、抗議受付時間の判定は「TIC へ申し出た時刻」を基準とする。

※本大会は Jury を設置しないため、当該種目の審判長の裁定を最終決定とする。

13. 表彰及び対校得点について

- 各種目 3 位までの入賞者には、表彰状を授与する。表彰は競技終了後に指定する場所・時間において行う。詳細は後日連絡する。
- 対校得点は、1 位 8 点、2 位 7 点、3 位 6 点、以下、5、4、3、2、1 点とする。ただし、エントリー数が 8 名未満の場合、1 位（エントリー人数）点、2 位（エントリー人数-1）点・・・とする。
- 総合順位について、同点の場合は、上位入賞数の多い方を上位とする。それでも決定しない場合は、4×400mR の結果で決定する。

14. 練習場及び練習について

- 前日練習は会場の都合により行わない。
- 大会当日のウォーミングアップについては主競技場、補助競技場並びに公園内競技場周辺とする。主競技場のバックストレートは、競技中・競技時間外を問わず、練習場所として開放する場合がある。詳細は代表者会議で説明を行う。開放時は現地審判員の指示に従って使用すること。なお、公園内は一般の利用者を最優先とする。
- 補助競技場は砂トラックのため、雨天時は利用を禁止する。また、投擲練習、スパイクの使用は禁止する。

15. 一般注意事項

- 競技者・競技役員・補助員以外の者はトラック、フィールドに絶対に入らないこと。
- 競技場内で着用するウェアや持ち込むバッグ等に表示されている商標は、「競技会における広告及び展示物に関する規程」〔国内〕に示すサイズおよび数を超えてはならない。これに違反したものについては主催者で処置する。
- 応急処置、その他健康上の問題が生じた場合は救護室に連絡する。
- 救急車要請が必要な場合、競技会場の事務所より要請するため必ず大会本部へ申し出ること。
- 競技場での疾病・傷害等の応急処置は主催者が行うが、以後の責任は負わない。

- (6) 大会期間中の貴重品の保管は各自で行う。盗難にあってもその責任は負わない。
- (7) 競技者の付き添いは一切認めない。従って、競技者以外は原則としてトラックならびにフィールド内に立ち入ることはできない。
- (8) 器具破損の場合は、当該選手の所属大学より原状復帰費用を徴収する。
- (9) メインスタンドでのテント等の使用は禁止する。
- (10) 観戦スタンド最前列の両側にある競技場内に下りる階段は使用禁止とする。
- (11) ゴミは各自持ち帰ること。
- (12) 競技場 1 階のトイレについて、競技者は南側のトイレのみを使用すること。また競技場 1 階にあるシャワールームおよび更衣室は必要に応じて使用することができる。
- (13) 記録証の発行を希望する場合は、TIC に申し出ること（発行料金 200 円）。
- (14) 各校のテントや横断幕等は、競技場内に限り競技会期間中に保管できる。ただし、盗難・紛失に際して一切の責任を負わない。
- (15) フィールド種目の競技者がやむを得ずトラックを横断する際は、競技中の走者の有無を十分確認した上で横断すること。安易な横断は重大な事故につながる恐れがあるため、十分注意すること。

更新日：2026/9/3